

がんばれ！太田哲也

FAN BOOK





有  
2007  
12.1



太田北へ

このイラストで応援したつもりが逆に“希望”という言葉を教わった。  
今後も微力ながら応援します。

HN:9696

太田哲也さま。

まいったなあ。つい「うん。書くよ」って答えちゃった。  
もうそれからずいぶんと時間が経っちゃってるけど、  
キーボードにババッと打ち込んで考え込んでデリートして、の繰り返し。  
ちょっとばかりマトモなことが書けたと思ったら保存だけして。  
でもね、どれも後になると、ちょっと違うんじゃないかって気がしてさあ。  
Macのモニターがこんなに広大に感じられたのは、初めてだよ。

俺が太田さんに、一番伝えたい言葉って何だろう　　？

伝えたい言葉は、いっぱいあるよ。ありすぎて收拾つかないほどに。  
どんなふうにも書いてみても、とりとめがなさすぎて、  
結局、後になって読み返してみたら嘘っぽいような気がしちゃうんだな。  
どうあっても、総てをちゃんと伝えることはできそうにないや。

だから、散々考えた末に気持ちの中に残った言葉、ひとつだけ。

生きてくれて、ありがとう。  
生きてくれて、ありがとう。

俺は太田哲也という男と同じ時代に生き、同じ時間を共有できたこと、  
心の中で誇りに思うよ。強く思うよ。  
クチに出すのは、これ1回こっきりだけ。

嶋田智之より。

”頑張れ！太田さん”

映画”クラッシュ”の上映後だから、皆さんの投稿とは時系列が新過ぎると思いますがご了承ください。

あれは、今年(2003年)の3月のユーロカップで、はじめて太田さんの応援に筑波サーキットに行った。愛車(相棒)の147の前でレーシングスーツの太田さん いや、太田選手と握手して貰ったとき、

「よく来たね！」

緊張していた自分に言葉を掛けていただき胸が熱くなった。あの、事故から戻ってきたんだな...っていう気持ちと、”太田選手ってあったかい人だな~”っていう思いが自分の心を震わせたからだろう。そういえば、嶋田さんはよく”太田さんはいつも我侘だから”って言うんだけど、初めてお会いした太田さんの第一印象は、かなりシャイで真摯な人だあって感じの印象が強い。表彰台にあがった時の仕草やインタビューに答えているところみると、(^\_^)a

...

太田選手のレーサーとしての魂(スピリット)が一点の曇りもなく、太陽のプロミネンスの様に脈々と息づいているのだと思ったのは、裁判でのやりとりでした。砂子選手のポルシェとのクラッシュ時の回避行動について、”相手も助ける為に...”という太田さんの発言に被告弁護人が”そんなことはないはずだ！”と言い放ったとき、それまで、真摯かつ淡々と答えていた太田さんが、”それはレーシングドライバーに対する侮辱だっ！”と去廷に響き渡った声は今も耳の奥に残っている。 ”言霊”って言葉があるけど、あれが正にそうだったと思う。自分がそうであったようにその場に居た人たちに心にズシンと響いたんじゃないかな？ 法廷の空気が一変したように感じられたし。

...

著書”クラッシュ”、JチャンネルやGET SPORTSなどのTVの特集で、励まされたりして力をいただいた太田哲也選手をこうして実際に見て...男に惚れるっていうのはこういう事をいうのだろうな。(尊敬という意味ですよ(笑))

そして、ご無沙汰になりつつあったカメラを持ち出し、ファインダーを通して、太田選手の走りを観つつ1シーン、1シーンをフィルムに切り取りはじめた。まだまだ、写真を撮った枚数は少ないけど、いま、一番のお気に入り、走行中の写真ではなく、出走前にふっと見せた笑った表情です。こんな太田さんをもっと見たい。そして、リバーズの中であつたオロフソン選手との”約束”を果たせる瞬間に立ち会いたい...

これは今の自分の夢、願いのひとつです。

最後に、自分の好きな言葉を贈りたいと思います。

僕の好きなDJ(TJ[トークジョッキー]ともいう)である小森まなみさんの口癖でこんな言葉があります。

”夢の方程式 夢プラス努力イコール現実”。

夢は現実にならないかもしれないけど、できないと思って努力しなかったり、あきらめれば現実には絶対にならない、努力すれば、得るものは絶対にあるし、努力することで見えなかった能力や可能性が開花して、現実には掴み取れる場合だってあるはず。夢をあきらめないで、夢に向かって勇気を出して一步一步踏み出そう...。(ちなみに彼女は太田さんと同じ年です)すでに、歩き始めている太田さんには送る言葉ではないのかもしれませんが(苦笑)

太田選手！ 頑張ってください！！



支離滅裂な文章でごめんなさいです！ 大橋 正紀(おおはし まさのり)

## 私が太田さんを応援するようになったきっかけ

笠井敬子

98年は、特にWGPで事故の多い年でした。

前後関係の正確さに自信がないのですが、青木琢磨選手のテスト中の事故を初めとして、選手がレースを離れ治療に専念しなくてはいけないほどの大きい事故がいくつも続きました。そんな中、太田選手の大事故も知る事となり、その時私は初めて「太田哲也」というレーサーについて知りました。「あら、これは大変・・・。」とかなり気になったのですが、当時はパソコンにも疎くレース関係の情報もモータースポーツ誌で仕入れるしかなかった私は、その直後起こった上田昇選手の事故の方に関心が移って行きました。

太田さんの事故後、時々レース誌に掲載される太田さんの近況や裁判の記事を、「あっ、あのんだ。こんなに元気になったんだな。」くらいの気持ちで眺めておりましたがその太田さんが本を出版されると聞き、事故にあった本人が書いた本ということに興味をひかれさっそく本屋さんで「クラッシュ」を購入、読んでみました。つらい事故の記憶、苦しいリハビリ、現在の状況・・・ご本人はどう受け止めているのかな、と。

ところがそこに書かれていたのは、もちろん「つらくて苦しい状況」ですが、その中でも暖かく、冷静に周りを観察する太田さんの目線でした。実際の事故から数年が経っているとはいえ、なぜこの人はユーモアさえ感じさせるような文章を書けるんだらう？看護婦さんや、他の患者さんや、家族に対しての優しい目線。きっと、人間として魅力的な人なんだらうな。

そう考えた私は、やっと身につけ始めたパソコンを駆使して「がんばれ！太田哲也」のサイトにたどり着き、「レーサー太田哲也」時代を知らないファンとして肩身の狭さを少々感じつつも太田さんを応援させていただいています。きっと心の広い太田さんは、「俺の走りを知らないファンだって！？」仕方ないな、応援して良いよ。」と許してくださいませよ。

長く応援掲示板を拝見しているうちに、太田さんと同じく奥様も素敵な方で、子供さん達もいい子達で、・・・とご家族の様子も分かり始めると、ますます「以前からの知り合い」を応援するような不思議な感覚がじわじわと自分の中で広がって来るようになりました。

このように、太田さんを応援し始めたきっかけはちょっとレースファンらしくないものでしたが、かえって肩の力を抜いて太田さんを長く応援していける気がしています。

最近の太田さんはいろいろ活発に活動して私達を喜ばせたり驚かせたりして下さいますからファンとしては毎日応援に忙しいくらいです。

これからも期待して、応援させてくださいね、太田さん。

太田さんは私に生きるということと幸せの意味を考えさせてくれた・・・

太田さんのことを知ったのは去年、きっかけは長屋宏和さんのHPでした。長屋さんを応援している方が「太田哲也さんのクラッシュを一度読んでみてください」と書き込みしていて、「太田哲也って誰だろ・・・クラッシュ？なんだろ・・・」とネットで調べたら『がんばれ HP』が。それから興味を持ち太田さんの考えに共感し、また勇気づけられそしてファンになりました。

自分のなってしまった病気ことでいろいろあったりして、よく「何で自分だけがこうなってしまったのだろうか？」なんて考える時期もありましたが、太田さんの本を読んだり HP を見たりして、体も心も悩んで苦しんだ時間はきっと自分のためになるのだと思えるようになりました。

治療が終わった今「そこまで考えることだったかな？」なんて思っちゃったりもしていますが、なにか『他の人と違うのだ』ということはどうしても受け入れられなかったし、その現実は目の前に消えることなくあるし・・・本当に辛かったです。

幸せってなんだろうなあ・・・って考えた時にやっぱりどうしても望み高いところを思い浮かべてしまうけれど『普通』がいいのかなあ・・・

その普通って一番難しいのかもしれないけど。幸せって生きていることだけで幸せなのかな・・・って太田さん、太田さんのご家族、太田さんの周りの方に気づかされました。

最後に・・・私は今もその葛藤の中にいるのは事実ですが、太田さんにはたくさんたくさん生きるパワーをもらっています。本当にありがとうございます。

これからもこんな私ですが応援させてくださいねえ！！！！

桜井 裕子

# “太田 哲也” 的な僕の友人！

by 森本ばば(実)

太田さん、お元気ですか？僕には、“太田哲也” 的な友人がいます。

初めて彼に会ったのは、僕が大学を卒業後に会社に入社してすぐのことでした。

彼を見たときに感じた強烈な違和感は、彼の左手が明らかに機能を失っている事では無く、そんな彼に普通に蛍光灯の交換を依頼する先輩や、普通に交換を行う彼の姿によるものでした。

彼は僕と同年齢で、高校卒業後に入社、そして入社間もない時期にバイクの自損事故により、全身に大きなダメージを受け、左手は肩間接以外の機能を失ってしまったのです。その後、僕が出会う3年間の間にどれほどの努力をしたのか、僕が出会ったときの彼は既に不器用な健常者より数段上の「器用貧乏な障害者」になっていました。片手であるハンディを感じさせること無くというか、一緒にいると片手であることを忘れてしまうほどで、本格的には事故後に始めたテニスに関しては一般の大会に出てがんばってます。ラケットを持った手でボールをトスしサーブを打ち、それだけでなく短いのにさらに長さが不揃いになってしまった足でバランス悪く走り、手の自由が無い事によるバランスの悪さも克服しテニスボールを追いかけております

1年の殆どがテニス三昧のおかげで、最近あまり遊んでくれなくなったのには、ちょっと困ってしまいますが、頼まれると断れない性格から、地元のテニス協会の役員として(便利屋さん?)も活躍しているようなので、まあ仕方がないのかなと思えるくらいがんばってます。

いつも僕が彼の立場に置かれたら、とてもあそこまでがんばることは出来ないのではと思い、彼の強さ・パワーを尊敬しているのですが、彼に言わせると、自分のことなのだから自分でやるしかない、出来る事、したい事をやっているのだから別にがんばっているわけではないという感覚のようです。

太田さんや、彼を見ていて思うのは、生死の境から帰って来れるか来れないかは、怪我の状態や看護体制ではなく、本人が強く生きていくだけの強さ・パワーを持っているかどうかで決まるのでは無いかということです。きっとマントの男は、太田さんの強さとパワーを確認に来たのでしょうか。つらくても厳しい道でも、がんばれる男だと認めてくれたのですよ。

もっとがんばって、強さ・パワーを太田さんを応援する皆に発信出来るように、そして“がんばれ”のHPのTOPが“瀕死の重傷事故から復活を目指すレーシングドライバー”でなく、太田さん自身の抱負の言葉に変わるようがんばってください。

そして、出来れば一度太田さんに彼を会わせてみたいですね。

## 【ディーノと！】

by 森本まま(則子)

1995年4月10日撮影

新婚旅行の時に  
ディーノの前で  
撮った写真です。  
レストアも頑張  
って下さい。





name: 山崎好訓 (ヤマザキヨシノリ)

add1: 〒422-8006 静岡県静岡市

from:

thankyou: [http://members.tripod.co.jp/to\\_fan/fan008.html](http://members.tripod.co.jp/to_fan/fan008.html)

自由投稿 : いつか見た夢

太田哲也選手がフェラーリを駆ってレースに復帰する、という夢を何度か見たことがある。他愛ない夢、と思われるかもしれないが、とにかくリアルな夢で、エグゾーストノートからオイルの臭い、タイヤのゴムのおいなども感じられるものだった。それは皆でチェッカーフラッグを振ってピットウォールから転げ落ちるように太田哲也選手を迎えに行く夢だったり、フェラーリのルカ・ディ・モンテゼモロCEOと太田哲也選手について歓談している夢だったり、F60(この頃はまだエンツォ・フェラーリという名前もデザインさえも決まっていなかったのに、なぜか夢の中では完璧なデザインとして、発表が半年以上先にもかかわらずエンツォ・フェラーリが自分の中で出来上がっていた)のテストを富士で行っている夢だったりする。さすがに担架に乗せられた太田選手に向かって「太田さん、死んじゃだめだーっ！！」と泣き叫ぶ夢を見たときはさすがに背筋が凍ったものだったが。

最近見たそんな夢の中で見た太田選手は、なぜか富士のプレスルームでの記者会見だった。太田選手は一言一言噛み締めるように、涙を流し小さく震え手を強く握り締めながら、こう語っていた。「・・・あんなところで死にたくなかった。死ぬことで負けを認めたくなかった・・・」自分もなぜかその場に居たのだが、夢の中でありながらも涙が止まらなかったのを覚えている。

またあるときは、マシンに向かっていく太田選手が私に気づき、すれ違いざまに肩を叩いて、「レースっていいなあ。生きててよかった！」と、まるで自分に言い聞かせるように声を掛けてきたこともあった。

これを読まれた方の中には「所詮夢じゃん」とおっしゃる方もおられるかもしれない。しかし、そのとてつもなくリアルな夢を見たときは目が醒めても涙が止まらなかったし、奇妙な興奮に包まれたのも事実なのである。

夢を見たときには、その都度「がんばれ！太田哲也」の掲示板に書き込んでいるのだが、三回目に記者会見の夢を見たときに太田哲也選手から「山崎さんの夢の話を見たときは無理かな、と思ったけど、最近はその夢が実現しそうな気がしてきたよ」というレスを頂いたときは、嬉しくて嬉しくて堪らなかった。しかし、自分ひとりだけが見ていた夢で終わってしまっていることがなんとも悔しいのも事実。

自分だけが見た一夜限りの夢に終わらせることなく、全ての人々が平等に感動を分かち合える日が来る日が、今の私にとっての願い(夢は醒めれば消えてしまう。願いはいつまでも消えない)。そして、太田哲也選手がくれた”Emotion”を、感動と心からの「お帰りなさい」の言葉と共に太田哲也選手に贈り返す日が来ることを、私は信じたい。

太田哲也様

太田選手を知ったのは、今の会社に転職した 92 年の時でした。この職場に Tipo が置いてあり、休憩時間に楽しく読んでいました。Tipo の漫画で「桜新町の懲りない面々」(でした?) で、太田選手をモデルにした時があり、この時 自分と同じ群馬出身なんだと知り、応援を始めました。(今でも「群馬出身」って聞くと、その人を無条件に応援しちゃいます)

そして、初めてお逢いしたのが 96 年の鈴鹿 1000km の時でした。太田選手は、Tipo の石井さんとホームセンターにバスマット等を買いに来っていて、買い物が終わるのを駐車場で待っていました。お忙しいと思いましたが、お話をさせて頂きました。自分が館林出身と言うと、「茂林寺だよな? 館林には友達が居るんだ」とおっしゃってました。

その 2 年後に、富士の事故が発生しました。オフィシャル 4 年目の自分にとってとてもショッキングな事故・事件でした。その後、鈴鹿でも事故映像を見せられ話し合いの場が設けられました。これで、改めてオフィシャル達の心構えも大きく変わったと思います。

その後少ししてから、「がんばれ! 太田哲也」の HP を発見し、BBS を ROM してる毎日でした。本当は直ぐにでも書き込みしたかったのですが、オフィシャルとして書き込めば袋叩きに遭うかもしれない。でも、オフィシャルと言う事を隠しての書き込みはしたくないと思い、書き込む勇気が有りませんでした。でも、このまま ROM していても、何も始まらないので「どうにでもなれ! 」と言う感じで書き込みました。

しかし、自分の予想とは反対に BBS の住人達は温かく迎え入れてくれました。直ぐに、あきさんから歓迎のメールを頂き嬉しく思いました。「袋叩きに遭うかも? 」と思っていたのに、今ではレースの度(旅?) に加藤さんにお世話になったり、富士のオフィシャルのじい~さんと知り合いになったり。自分にとって、人の輪が大きくなりました。これは、太田選手が引き合わせてくれた、大切な財産だと思っています。だから、自分は「がんばれ! 太田哲也」ではなく「ありがとう! 太田哲也」と言いたいです。

また、篤子さんにも裁判の時 お逢いしましたが、現場のオフィシャルに対して理解をしていてくれたので、とても感謝しています。

これからも、自分のスタイルで太田選手を応援していきたいと思います。最後として、太田選手 そして太田選手に関わる全ての人に「ありがとう! 」

鈴鹿オフィシャル 土屋 ひろし

私は、今までダートトライアルから始まってジムカーナを得て GT やFポンで参戦されている先輩に憧れ、夢に見てきたレースによくたどり着いたのが1998年3月がデビュー戦となった富士チャンピオンシリーズでした。先輩達を追いかけてレースと言うものの世界に入りこんだ矢先、同年の5月3日、自分のホームコースでもあるあの富士での太田選手の大クラッシュを知る事になったのです。直接サーキットにいたわけではなかったのですが、富士の直ぐそばのガレージで自分のマシンを調整中にグランドスタンド付近で真っ黒な煙が立ち上げるのを見たのでこれはただ事では無いと、直ぐに先輩のチームの方に連絡を取って「何があったのですか？」と伺いました。その時は、「大変な事故がストレートで発生をしたんだ、今は状況を説明出来ない！」と言われました。その後、ガレージでもその事ばかりが気になり作業も手に付かない状態でした。

大阪へ戻ってから富士での事故の状況を聞く事が出来、そこで太田選手が大変な事になっていると言う事を知りました。太田選手のクラスやレベルから比べると、とってもちっぽけなレースではありますが私も同じドライバーには変わりありません。私もレースが大好きで夢を持ち続けてきた結果それが叶い走る事が出来たのです。そこで私は太田選手にもう一度レースに、サーキットに戻ってきて欲しいと言う気持ちが込み上げ、Tipo の嶋田さんにご相談をさせて頂き「がんばって太田選手！」と言う真っ赤なフェラーリをイメージし赤い文字のステッカーを私の車の両サイドのフェンダーに大きく貼って、太田選手を応援しながら3年間富士で走らせてもらいました。

私が、3年間富士で走ってきた中で1度だけヘアピンで単独の大きなクラッシュをし、車を全損に近い状態にまでしてしまった事があります。その時のレスキューの対応の遅さに頭に來た事等を太田選手にメールでお話しをした所、太田選手より温かい励ましのお言葉を頂き、その内容の中で最後に書かれていた「がんばって！」と言うその言葉に本当に勇気づけられ、体中打撲で首も回らないムチウチ状態にもなっていたのですが、その次のレースには痛み止めの注射をうって最後まで走り終える事が出来ました。

雨の中のレース、300Rが川のようになって前の車のテールランプがうっすらと赤くボンヤリ見えてると言ったような富士独特の深い霧の中でのレース、本当に走って怖い思いを沢山した事もありました。どうしても男性に勝てない悔しさも、太田選手の「がんばって！」と言う言葉が全てを支えてもらっていたように思います。

早くサーキットに戻ってきて欲しい！その願いが天に届いたのか太田選手の並ならぬ努力ともう一度走りたいと言う思いの強さが現実になって、今は徐々に回復をされてお元気な姿を拝見出来て本当に嬉しく思っております。

今現在、私はレースをやめてしまいましたが、鈴鹿サーキットでレスキューと言う仕事に付いております。私がレスキューをやろうとしたきっかけも太田選手から教わった事から、レースをいつでも安全に且つ楽しく行える様少しでも力になりたい、そしてもう2度とこんな事故が起きて欲しくないと言う気持ちがあり、私も一度はサーキットのコースのグリッドに並び太田選手と同じコースを走っていたドライバーの一人として、これからのレースに関係するさまざまな問題を解決出来る提案が出来ればと思っております。

そして、これからは事故が発生した時にいち早く現場へ到着しドライバーやライダーを救出する救助でのスピードレースで活躍をしていきたいと思っております。

近いうちに太田選手が私の待つ鈴鹿のグリッドにつかれる日を楽しみにしながらレスキューの仕事が続けていきます。

元氣と勇氣、そして心の支えになって下さった太田選手に感謝しております。

本当に有り難うございました。これからもどうぞよろしくお願い致します。

元富士のちっちゃなドライバー 小林郁子



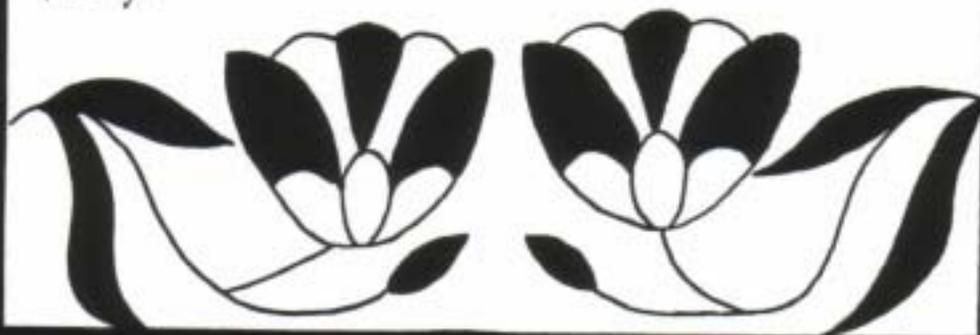


# 太田哲也

太田哲也様

太田さん、「クワッシュ」との出会い、7才年下の弟を買ってまた「ヤングマガジン」でした。「クワッシュ」の漫画版を読んで、「たまたまスゴイ話なんだ!」と思い、弟にそのことを話すと「クワッシュ」の単行本を借してくれました。それからすぐ「クワッシュ」を読み切りました! こんなスゴイ体験をした方がいることに驚き、PTSD、死への復讐に共感しました。それゆえ、「生」までいこうとする太田さんに感銘しました。

「クワッシュ」と共に2001年末を超えて、2002年、24才の自分の中に立ているわけなのでしょうが、私には生まれてきた24年間の人生はとても残酷で、これから的人生も残酷



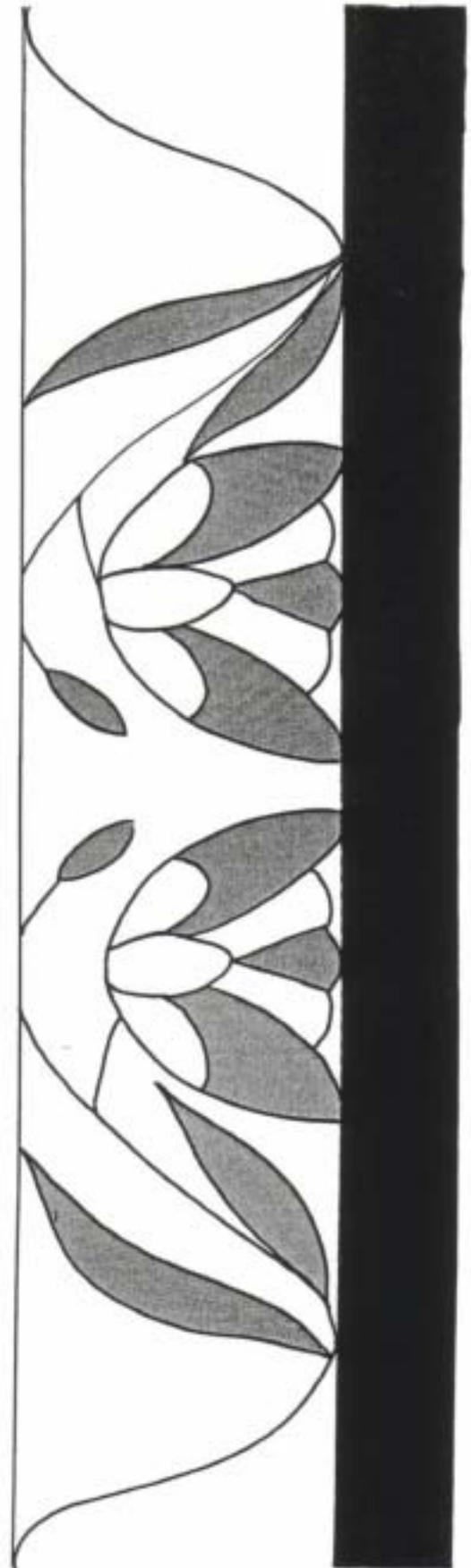
甘いのひまわりや、こんち私でも  
夢というよりも秘やかな野望や  
あります。それは「すべての人間  
や幸せに於ること」です。

そして、私の人生の最大の出会い  
や太田聖也様ということに  
感謝致します！

太田様、辛い事故、火傷に  
あわれた大変だったと思います。  
でも前向きに生きていく、そのお  
姿に心をうたれました。これからも  
ずっと応援しています！少しでも  
お身体の具合や良くなることを  
切に祈ります。

最後に、この度書かせていただき  
まありやとうござりました。

深谷麻里子



私の夢は“自動車整備士”になることです。  
 父が昔から車やバイクが好きだったこともあり、小さい頃からF1やGT  
 などをよくテレビで見っていました。  
 また、中学年の時にレースを初めて見に行きました。テレビで見ているよ  
 りもずっとおもしろくてワクワクしました。  
 そして、そんな時に太田さんが書かれた“クラッシュ”に出会うことが  
 できました。読んでみると、太田さんの気持ちが素直に伝わってき  
 て、涙があふれてきました。  
 そして、その日を境に、「車やバイクのことを知りたい」と思い、いろ  
 いろ考えた末、自動車整備士になろうと思いました。始めは  
 太田さんのようにレーサーになりたいと思いました。しかし、私に  
 太田さんのような強さがあるはずもなく、どちらかという選手  
 を手助けしてあげるようなメカニックの方がずっと自分に合うので  
 はないかと最近では考えるようになりました。  
 そして、中学3年になった今、受験が近づいてくるにつれて、  
 「本当に私なんかが夢をかなえることが出来るだろうか」と不安に  
 なります。しかし、そんな時“クラッシュ”をいつも思い出します。  
 思い出すたびに、「強くならう」と立ちあがることが出来ます。  
 これから何年がらうとも、胸をはって「自動車整備士になりました」と  
 言うことが出来るようになるまであきらめずにがんばりたい。

太田さん、  
 私が本当になりたい仕事を  
 見つけて下さってありがとうございます。

ペンネーム 海 より



# 私の生きる励みです！

私は太田さんより、7ヶ月位遅く路上での事故で、脳、肺の挫傷、粉碎骨折などの症状で命の危険にさらされましたが、今は様々な助けで活動できるようになりました。

でも、右足一本は、あっても使い物にならず、その他細かい障害が残ってしまいました。

そんな中、昨年テレビで太田さんの事故の事を知り、私は、「すごい！私がこのような事故にあっていたらどうなっていたらう！？」と、考えずにはいられませんでした。

運転はしていても、車の事は余り興味もなく、その時まで、恥ずかしい事に自分の事だけで精一杯で、太田さんの存在も事故の事も知らなかったんです。その時私は、太田さんの大変さ、生き様に驚き励まされ、もっと知りたい！と思いました。

まずは、『クラッシュ』をすぐ買い、かみ締めるように読みました。読んでから活力が与えられ、「私も頑張れるかもしれない」と思い、それから必死にパソコンを学び、太田さんのHPを見る事ができるようになりました。

そして、太田さんの世界をもっと知りたい！と思って、さらに車やレースの事も勉強中です。今まで興味なかった人が、太田さんの存在をきっかけに勉強しようと思うようになったんですよ。



今になってみると、私の体の辛さは、短く感じますが、慣れ親しんだ事が普通に出来なくなったゆえに、新しい事にチャレンジする生活で、精神面での闘い、心の葛藤は、今でも続いていて毎日辛さを味わっています。

その度に、太田さんの本やHPを見たりしてしのいでいるんです。

太田さんの活躍を身近にもっと感じるなら、元気が与えられて、私の世界が広がって楽しい人生を送れるような気がします。イベント等があっても遠くて行けないので、悔しいです。とりあえず情報などで我慢します。

だから、テレビ・雑誌等は勿論の事、表に出る事を止めないで下さいね！

私、これからの人生は、体調が可能な限り、自分がこうしたいと思ったらためらわず行動して、楽しんで生きていきたい！と強く思うようになりました。以前の生活では、こんな事考える事はなかったでしょうけど、太田さんのお陰でもあります。これから、太田さんの活躍を、私の人生の楽しみ喜びとさせて下さい。

ペンネーム：福島のekワゴン

♡ がんばって下さいね ♡ ♡ ♡

あの日、弟(メカニックですが)達が FT に出ていました。朝からの雨で「本当にやるの？止めようよ。ムリしなくていいから。」と言い続けていました。確かにまた観に行けるから、の意見がもしもありません。でも、FT の時 A コーナーで写真を撮っていて黒光りする路面、不安定な動きをするマシン。不安で仕方ありませんでした。レースを観戦するようになって7年、身内が参加しているせいもあったかもしれませんが。しかもあの年は仲良くなったドライバーさんが FT から GT にステップアップした年で、あの日もピットウォークで散々砂子さん達と話をしてもらって帰りがけにフェラーリが好きだったので太田さんにサインをもらい「応援してくださいね！」と握手してもらった後でした。今でもその時の真っ直ぐな眼差しと大きく暖かかった手を忘れられません。

正直記憶も曖昧になってきていますが、G.W.辺りは94年のミラージュの柴田昭さんからバイクの若井伸之選手、最終コーナーのオフィシャルさん、R.ラッツェンバーガー、A.セナ、永井康友選手...いろいろな理由があり、直接のお知り合いではありませんが自分の大好きなレースに関わっている人達全てに尊敬の念を持っている私には辛い1時期でした。他にも黒澤琢也選手のF3000富士のストレートでのクラッシュ、前年の秋の横山選手の事故も「生」で見ちゃって「もっと安全にレースを観たい！何故、鈴鹿のF1の様にしないのだろうか？何故各サーキットで同じ様にレースが行われないのだろうか？」という想いが大きく膨らんでいた時でもありました。だから私は「応援している」という感覚では無く「どうやって行くのかを見届ける」というスタンスなので他の人とは違うかもしれません。

その一方で太田さんからもらった縁は多大です。山路選手、砂子さん、嶋田さん、古屋さん、じいーさん、ひろしさん、小林さん...etc 縁が縁を呼び、想いを相手に伝える事の難しさや本来なら絶対外に伝わってこない事など知らなかった事をたくさん知る事が出来ました。ただ、ただ感謝！

ただ「安心してレースを観たい」その想いは今も変わりませんがその為に私には何が出来るのか？その答えはまだ見つかっていません。取り敢えず、とにかく視続けて行こうと思います。そして繋がった「縁」を大切にしていきたい。今はそれしか考え付かないから。

いまだに「業界」では「裁判を起こす方が悪い」的な意見が多く感じられます。それどころか5年が経ち風化しているのを感じます。一時は真剣に太田さんに裁判を取り下げてもらいたいと考えもしました。それが「裁判を起こす方が悪い」的な意見の人達に分かってもらう為に一番良い方法な気がしていたんです。代わりにJAFの安全部会に就任してもらえば一挙両得になると考えていました。少なからずじいーさんの影響を受けた考えですが、勝手な話ですね。f(^ ^ ; ;  
でも、太田さんにどんな形であれ「現場」にいてもらう事が一番の「防止策」であると真面目に思ってます。

もうじきFISCOが1年半のクローズになります。期待よりどちらかというと不安の方が大きい。パドックで掃除をしてくれているおばちゃん達。実はレースを良く知っていて「あの車この間も止まっちゃたんやな。」とか言いながら掃除をしてくれている。もういなくなっちゃったけど中学生だった息子の顔を覚えてくれていてパドック入場の時、止めなかった警備員のおじさんとか多くのオフィシャルさん達やチャンピオンクラスのドライバーさん達はいなくなってしまう可能性が強い。「今と変われば良くも悪くもどうでもいい。」TOYOTA 的な考え方ではなく「観客に、エンタラントに良い変化になる事を願って止みません。

それでも、私はレースを観ているんだろうな。死ぬまで観ていられたら幸せですね。( ^ ^ )  
加藤政子でした。

すべては98年5月3日……

秋田 貴子

たまたま富士山方面へドライブへ行った時に寄ったスピードウェイ。  
雨のため、いつもは入らないスタンドでの観戦中に、目の前でおきた太田さんの事故。

その事故が、今の仕事を始めるきっかけとなりました。  
また、Tip oに載っていた「がんばれ！太田哲也」のHPを見たいが為に、  
1年後にはPCも購入。

あの事故から4年…

仕事も辞めることなく、HPを通じ友達も出来、2001年には念願だった  
太田さんともお会いすることが出来ました。

「世の中、無駄なことは何一つない。諦めるな！」と教えてくれた太田さん。  
沢山の出会いを作ってくれた太田さん。  
その出会いの中には、いくつもの大きな山・深い谷・荒れ狂う激流があっても、  
ずっとずっと大切に育んでいきたいものもあります。  
太田さんやHP仲間から学んだことで、何があっても受け止め・乗り越えて  
行くことが出来ると信じています。

太田さん、どうもありがとう。





